

【I.実習報告2 としま案内人駒込・巣鴨】

## 学生地域ガイドによる地域の次世代育成

人間学部 教育人間学科 3年 早川誠



写真 地域ガイド活動を実践する筆者

[キーワード]

地域ガイド、学生ガイド、次世代育成

【概要】

学生を対象とした地域散策会への参加をきっかけに学生は地元地域との関わりが薄いと感じた。そのため、地域と深く繋がりガイド活動を行っている「としま案内人駒込・巣鴨」の活動に参加し、地域ガイド団体と地域との関係性について学び、いかに学生が地域と関わることができるかを考えた。

活動に参加していく中で学生自身が地域ガイドを行うことが、地域とつながるためには有効ではないかと考えた。そのため実習ではガイド団体の運営やガイドスキルについて学び、最終的に学生ガイド団体を作ることを目標とした。

## 1. 背景

大学生は自分の地元との繋がりが薄い。私は「としま案内人長崎町」が行った学生を対象とした地域散策会に参加し、そのように感じた。定員が20名で豊島区の各大学に呼びかけをしての散策会だったが、参加した学生は私を含め4名だけだった。その企画を通して自分の住んでいる地域や通っている大学のある地域を学ぶ機会があまりなく、知らない事が多くあると感じた。また、自分と関係のある地域に興味の無い学生も少なくはないと感じた。学生と地域との繋がりが、地元の若者と地域との繋がりが薄くなってしまったため改善する必要があると考えた。

一方で、地元地域に興味のない学生ばかりではない。大学生対象の散策会に参加した人の中には、自分の住んでいる地域の事を知りたいために参加している人もいた。そういった学生を地域の次世代として育成していくことが、地域の発展や繋がりづくりといった面で必要であると考えた。

実習を通じて、としま案内人と同じように地域のガイド活動を行う学生主体のガイド団体を組織することができれば、地元地域の次世代を担う学生を育成することができると考えた。

## 2. 実習の目的

社会教育団体「としま案内人駒込・巣鴨」で地域ガイドをどのように企画し、実行しているかについて学ぶ。ガイドのスキルや会の運営についても学び、学生が地域ガイドに参加することによってどのようなメリットがあるかを考える。また、どのようにすれば参加してくれるかを考え、構想を作りあげていく。

## 3. 団体概要

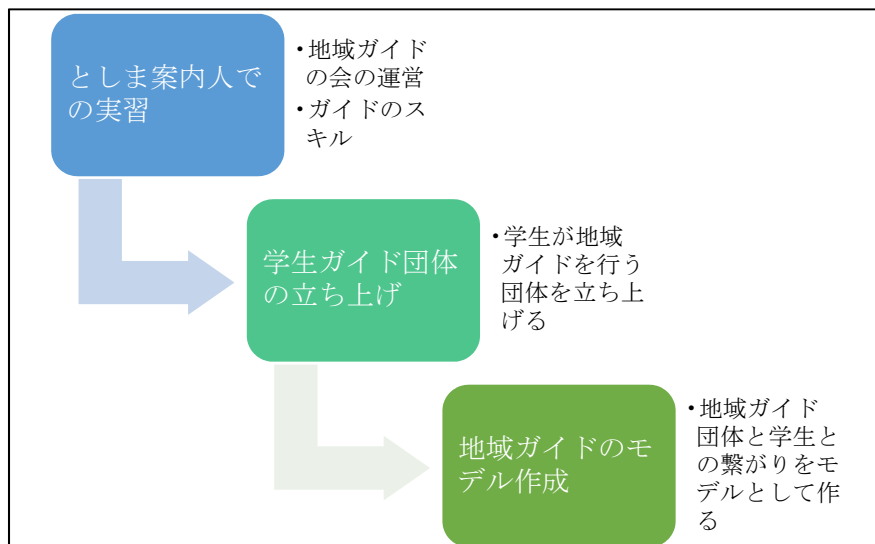
「としま案内人 駒込・巣鴨」は平成23年に準備会が立ち上がり、2年の研修を経て平成25年に発足した。豊島区の社会教育・生涯学習団体、ボランティアガイド団体として活動しており、現在会員は20名を超えている。

主な活動は、地域の学習と案内で、地域に関係する講演会・研修会などを実施し、その成果をガイド活動で紹介している。

ガイド活動はJR駒込駅・巣鴨駅・大塚駅 都営三田線西巣鴨駅 都電荒川線庚申塚駅などを出発場所として、豊島区・文京区・北区・板橋区での案内活動へと展開している。

2017年には英語での案内も開始している。

#### 4. 実習のプロセスと方法



図：実習プロセス

##### (1) 事前

- 6月9日 旧古河庭園&飛鳥山コース ゲスト参加
- 6月11日 としま案内人駒込・巣鴨 6月定例会議
- 6月13日 大正大学 社会教育計画論 街歩き講義
- 6月20日 大正大学 社会教育計画論 街歩き
- 7月9日 としま案内人駒込・巣鴨 7月定例会議

##### (2) 事中

- 7月14日 JICA ガイド ガイド参加
- 8月6日 としま案内人駒込・巣鴨 8月定例会議
- 9月10日 としま案内人駒込・巣鴨 9月定例会議
- 10月8日 としま案内人駒込・巣鴨 10月定例会議
- 10月12日・13日 西巣鴨周辺ガイド ガイド参加
- 10月16日・23日 早稲田大学留学生ガイドプロジェクト打ち合わせ
- 10月30日 早稲田大学留学生ガイドプロジェクト 事前学習

##### (3) 事後

- 11月2日・3日 鴨台祭模造紙展示、パワーポイント発表、地域ガイド体験企画
- 11月6日 早稲田大学留学生ガイド ガイド参加
- 11月10日 JICA ガイド ガイド参加
- 11月10日 早稲田教育実践フォーラム ポスターセッション
- 11月12日 としま案内人駒込・巣鴨 11月定例会議

- 11月25日 留学生餅つきガイド ガイド参加
- 12月10日 としま案内人駒込・巣鴨 12月定例会議
- 12月11日 早稲田大学留学生ガイドプロジェクト 事後報告会・交流会
- 12月22日 東京学芸大学 シンポジウム
- 1月14日 としま案内人駒込・巣鴨 1月定例会議

## 5. 実習内容

### (1) 旧古河庭園&飛鳥山コース 6月9日

実習を始めるにあたり、としま案内人が行っている地域ガイドとはどのようなものか把握する必要がある。最初の実習活動であった旧古河庭園と飛鳥山のコースの案内活動では、ガイド側の参加ではなく、サポートと見学をした。

ガイドを行った6月9日は晴天の猛暑日であった。そのため、こまめな休憩を取りながらガイドは行われた。駒込駅を出発し、旧古河庭園へと向かった。ただ、歩きながら向かうのではなく、その場所に関係する話をするなど参加者を飽きさせないようにする工夫が見受けられた。最後は飛鳥山の見どころの一つであるあじさいの見られる場所で解散をした。この場所で解散した理由もお客様にゆっくりとあじさいを味わってほしいという理由からである。

このガイド活動で感じたことは、お客様を楽しませるように努力をしてガイドを行っているということである。また、お客様の体調を気遣うといったケアもきちんと行っていた。

### (2) 大正大学社会教育計画論 巣鴨・駒込街歩き

#### ・事前学習 6月13日

大正大学の授業である社会教育計画論の授業の一環として、としま案内人による駒込と巣鴨の街歩きが企画された。学生の立場として企画に参加をした。

事前知識なしでは、ガイドをしても分からない部分が多いということで、事前学習を行った。ボランティア活動とは何かを考え発表をした後、今回の街歩きのコース説明があり、高橋さん、江原さんを中心に駒込・巣鴨の歴史について学んだ。

コースは大正大学を出発し、染井霊園を通り、駒込の地域文化創造館に到着するというものである。

#### ・社会教育計画論街歩き 6月20日

当日の参加者は14名であり、2班に分けて行動することとなった。天気が雨であったため、傘を差しながら移動することとなり、不便な点があった。

街歩き自体は問題なく進行し、学生も事前学習があったためか説明を理解できて



写真1. 家系図を使い説明するとしま案内人

いるように感じた。また、仏教学科の学生から案内人でも知らない情報の指摘があった。

駒込地域文化創造館に到着後、今回の授業のまとめミーティングを行った。学生からは、ガイドをするための工夫の素晴らしさや案内人の持っている膨大な知識量に驚かされたといった感想があった。

また、地域の住民が地域の歴史を学び、今回のように後世の人に伝えていく事の大切さも意見として出た。

としま案内人からは、学生と歩くことで新たな発見やシニア層との興味を引く部分の違いを学ぶことができたといった意見があった。今回の街歩きは学生とシニア層との交流といった一面もあり、双方にとって有意義な街歩きであったと考えられる。



写真2. 事後学習会・振り返りの様子

### (3) JICA ガイド 7月14日

国際協力機構 JICA の事業で日本を訪問中の 14 カ国 16 名の外国人に皇居東御苑を案内した。としま案内人の中の英語部会が中心となった活動であり、ガイドは全員で 11 名参加し、写真や絵、身振り手振りでわかりやすく表現をしていた。

私も初めてガイド役として参加をした。私は英語が殆ど話せないが、手書きのカンペと英語部会のサポートもあり、なんとか相手に理解してもらうことができた。としま案内人としても初めての試みであったため、探りながらのガイドであったと感じる。

私のこれまでの大学生活の中で JICA のような方々と接する機会は殆ど無かったため、貴重な経験となった。



写真3. 皇居での集合写真

#### (4) 学生ガイドプロジェクト

JICA のガイド経験から、学生がとしま案内人と繋がりながら地域ガイド活動を行うことで、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につけることができるのではないかと考えた。そこで、私は学生が地域ガイドを行う学生組織を作ることによって、それを実現できるのではないかと考えた。

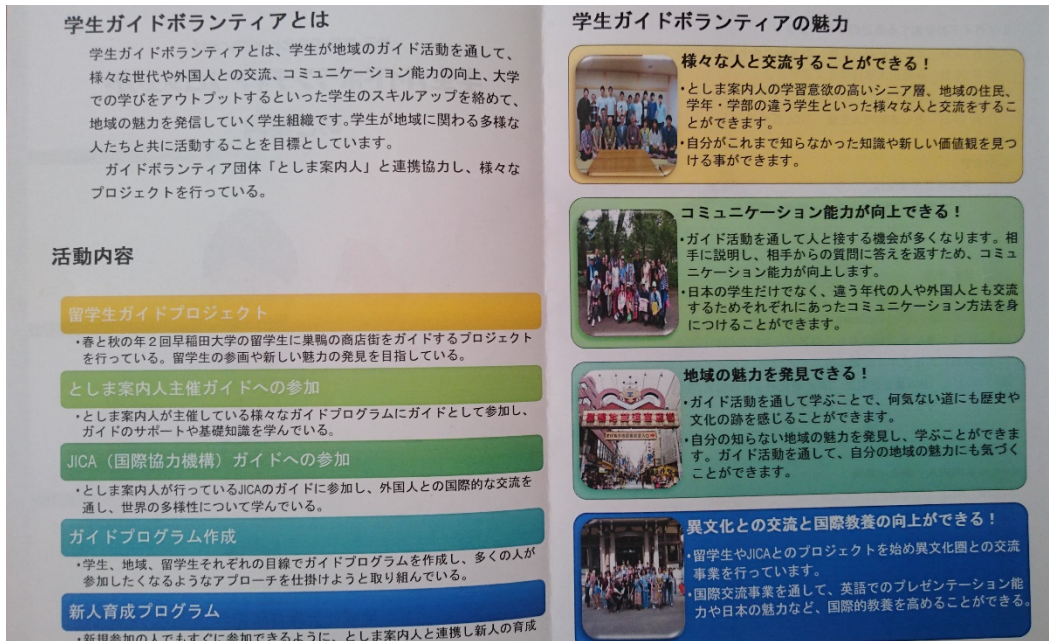


写真4 学生ガイド募集のパンフレット

写真4のパンフレットを作り、大正大学の学生に呼びかけを行った。呼びかけの際に掲げた学生ガイド活動の魅力は以下の通りである。

- 1) 様々な人と交流することができる  
としま案内人の学習意欲の高いシニア層、地域の住民、学年・学部の違う学生といった様々な人と交流をすることができる。自分がこれまで知らなかったことや新しい価値観を見つける事ができる。
- 2) コミュニケーション能力の向上  
ガイドを通して人と接する機会が多くなる。相手に説明し、相手からの質問に答えを返すため、コミュニケーション能力を向上させることができる。  
日本の学生だけでなく、違う年代の人や外国人とも交流するためそれぞれにあったコミュニケーション方法を身につけることができる。
- 3) 地域の魅力を発見できる  
ガイド活動を通して学ぶことで、何気ない道にも歴史や文化の跡を感じることができるようになる。自分の知らないその地域の魅力を発見し、学ぶことができる。
- 4) 異文化との交流と国際教養の向上ができる  
留学生やJICAとのガイドプロジェクトをはじめ異文化圏との交流ができる。  
国際交流事業を通して、英語でのプレゼンテーション能力や日本の魅力の再発見、国際的教養を高めることができる。

このような魅力を掲げて、大正大学を中心に呼びかけを行ったが、私の説明不足も起因してか、団体への参加者を確保することはできなかった。だが、学生が社会へ出るために必要な能力であると考えているため、大正大学のみでなく、豊島区の各大学と連携したいと考えている。

(5) 西巣鴨周辺ガイド 10月12日、10月13日

二日間に分けて西巣鴨周辺のガイド散策を行った。12日は7名、13日は13名の参加者であった。コースは全養寺をスタートし、大正大学で途中休憩を入れ、庚申塚に向かうコースである。当日は私以外の大正大学の学生も参加し、大正大学を案内する際は、サポートもしていただいた。

普段は入ることのできない全養寺の閻魔堂に特別に入れていただき、間近で3メートルの閻魔様を見ることができた。外から見て話すよりも迫力が伝わりやすく、このようなサプライズもガイドの一つの魅力であると感じた。



写真5. 全養寺の閻魔堂でのガイド



写真6. 大正大学のサザエ堂のガイド

(6) 早稲田大学留学生プロジェクト

1) 企画打ち合わせ 10月16日、10月23日

早稲田大学の留学生を日本文化理解の一環で巣鴨のまち歩きをする活動（早稲田大学の正課授業）があり、そのガイドを行う依頼があった。

この「留学生ガイドプロジェクト」を進めていくため、関係者の顔合わせと事前打ち合わせを行った。打ち合わせの中では、前回のようについでに団体で行動せずに個別のグループに分けることや事前学習を行うことについて話し合った。

今回の留学生ガイドは早稲田大学の授業の一環であるため、時間が決まっており、グループとの綿密な打ち合わせが必要だと感じた。

2) 留学生との事前学習 10月30日

事前学習会は雑司ヶ谷の地域文化創造館で行われた。留学生は午前と午後それぞれ35人で、計70人の参加であった。事前学習会の進行は、まず私から今回のガイド目的を簡単に説明し、石田先生による巣鴨についての説明を行った。その後、留学生をグループ分けし、グループ内でガイド当日に見て回るテーマと見る場所を話し合いながら決めてもらうという構成になっている。打ち合わせ時に事前学習当日

の流れを確認していたこともあり、スムーズに会の進行をすることができた。

留学生の数に対してサポートする大人と学生が少ないことが課題であると感じた。

### 3) 留学生まち歩き ガイド参加 11月6日

留学生ガイド当日は大雨であったが、大学授業であることから、なかなか中止にできないため雨天でもガイドを行った。集合場所は都電荒川線のホームであり、一時ホームが混雑してしまったが何事もなくガイドは開始することができた。私のグループは午前・午後共にガイド後に授業がなく時間が空いているグループであったためゆっくりとガイドをすることができた。雨の中大変であったが、多くの参加者が楽しんでいる様子であった。

留学生の中には次の時間に授業が入っている学生もおり、急ぎ足でのガイドになってしまったグループもあったなど次回への改善ポイントも幾つか見つかった。

### 4) 事後報告会・交流会 12月11日

留学生ガイドを行って感じたことを意見交換する事後報告会を開催した。場所は  
大正大学の鴨台花壇カフェを貸し切り行った。

早稲田大学の担当教員の先生からは留学生が書いたレポートを持参してガイドとして参加した方に留学生の反応を報告していただいた。大正大学の担当教員である出川真也先生からは今回のガイドに参加した方を対象に行ったアンケートの結果を報告した。学生やとしま案内人からも参加しての感想と次回への問題点を意見交換した。その後は次回からもプロジェクトを行っていくために事後報告もかねて交流会を行った。

全体的に留学生は楽しかったという感想が多く、ガイドして良かったと感じた。また、留学生の側からも時間が短いといった問題点が挙がっていたので解決すべき課題も多いと感じた。しかし、時間の問題を除けばかなりの高評価であったため来年への期待も高く持てるのではないかと感じた。

### (7) 鴨台祭での企画活動 11月2日、11月3日

大正大学の文化祭である鴨台祭にガイド活動を活用した企画を行った。鴨台祭では教室内でのポスター発表、パワーポイントを用いた発表の他に、体験企画として大正大学を中心として西巣鴨の周辺の地域ガイドを行った。

西巣鴨周辺ガイドでは鴨台祭当日が土曜日と日曜日であったこともあり、お寺を案内した際に法事が行われていた。その際サポートで参加して下さっていた豊島案内人の五十嵐さんに手助けしていただいた。まだガイドとして1人で案内できるほどには成長していないと感じた。また、移動中には自分の中の情報量が少ないために無言で移動してしまうことが多くあった。案内する場所に関する情報を仕入れておくべきであったと感じた。



(8) JICA ガイド 11月10日

飛鳥山から巣鴨商店街にかけて JICA の外国人をガイドした。このガイド活動では普段よりも説明部分を少なくし、巣鴨商店街で自由時間を設けた。ガイドの最後には巣鴨の地域文化創造館で豊島案内人のシニアの方々に JICA からインタビューをする時間があった。

英語ができなかったためおどおどしてしまっただが、担当の庚申塚ではきちんと相手の反応を確認しながらガイドをすることができたと実感している。また、今回のインタビューは JICA 側から話があって実現したものである。としま案内人の国際交流が一層深まっていると感じた。

(9) 留学生餅つきガイド 11月25日

帝京大学や早稲田大学等の留学生に巣鴨・駒込をガイドした。今回のガイドのメインは「染井よしの町会」が行っている餅つき大会の参加であった。留学生が11名の参加であり、複数の班に分けてのガイドであった。私の今回は役割は写真の撮影であったが、グループ内では私もガイドをすることを考えていたために齟齬が生じた場面もあった。

餅つき大会は留学生に好評で参加したとしま案内人のメンバーも楽しんでた。留学生からは楽しく学ぶことができ良かったとの評価を頂くことができた。

今回は留学生が対象だったため、同年代である学生がいたことで、より楽しく会話しながら案内できるのではないかと考えられる。日本人学生の側も国際交流を経験することができたことから、良い関係性を築くきっかけとなったのではないかと考えられる。



写真7. 餅つき大会に参加する留学生

(10) 実践研究 東京ラウンドテーブル（東京学芸大学）での報告 12月22日

東京学芸大学で行われたラウンドテーブルに参加をした。私は学生の地域ガイドについて発表を行った。地域のために学生がガイドを行うことは地域理解にとって良いことであるなどの意見を頂いた。

しかし、私の学生ガイドの構想も学生と地域のモデルも私だけの参加ではなく、実際に学生ガイドを組織して運営してみなければ分からないとの指摘も受けた。良い意見と共にこれからの課題を発見することができた貴重な機会であったと感じる。

## 6. 成果

(1) 身近な学びから得られたこと

実習を通して大学では経験することのできない体験をすることができた。元気なシニアの方々との交流、JICA や留学生との国際交流、ガイド企画に参加するお客様

との交流とガイドを通して様々な方との交流をすることができた。同年代の学生と違い別の視点をもっているため、より詳しい地域の歴史や社会教育の知識を獲得することができた。

また、地域を伝えるガイド活動を通して、地域との繋がりを深めることができるようになったと感じている。自分の通っている大学の地元について実習当初は殆ど何も知らない状態だった。しかし、実習を続けていくうちに地域の歴史を学び、大学の地元について知ることができた。同時にそのような歴史を調べ、受け継いでいく地域の次世代の育成が必要であると考えた。

## (2) 地域学習団体とガイド活動へのインパクト

学生が地域ガイドに参加することによって、これまでよりも活動の幅が広がって行くきっかけにしてもらえればと考えた。通常行っているガイドコースを学生目線から評価することは、新しい取り組みを再構築することにつながるのではないか。そうすることによって、地域ガイド自体にさらなる膨らみができ、さらに充実したものになる可能性がでてくるのではと考える。

地域の歴史を伝えていく側である地域ガイド活動に学生が参加することによって、その後の会のメンバーを確保できるメリットもあるだろう。また、地域の歴史を伝えていくための担い手を育成することもできるといったメリットもある。

学生の参加は会全体のメリットと共に地域全体のメリットにも繋がっていくのである。

## 7. 考察・明らかになったことー地域の次世代育成モデルの提案ー

地域における次世代の育成はその地域が続いていくのに必要である。次世代の語り部がいなければ地域の歴史と共に地域全体が風化してしまう。また、地域を盛り上げていく若者の存在は次のステップに進むために必要であると考えた。今回の取り組みをベースにして、私は図のような地域の次世代育成モデルを考えた。

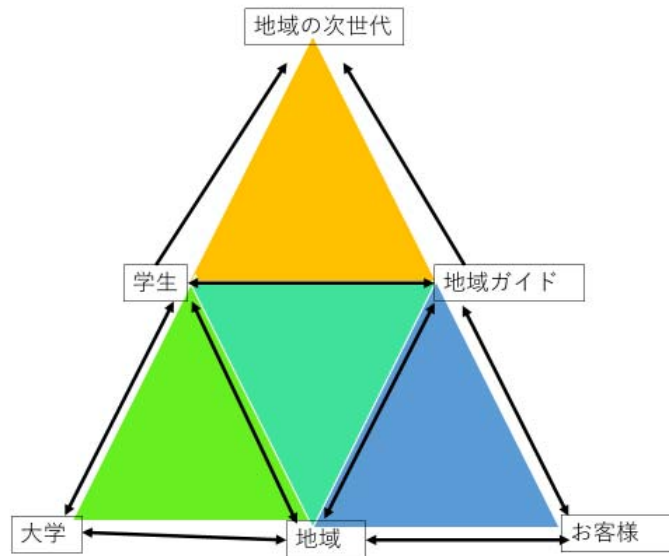


図1. 地域の次世代育成モデル

このモデルは、地域に関わりを持っているもの同士が繋がりを持つことによって、同じ目標へと到達することができることを表す図となっている。今、機能しているとしま案内人の関係性の中に学生が繋がりを持つことで、学生自体の繋がりや広がりと共にとしま案内人側にも大学との繋がりやすくなるといった双方向の利点が生じる。最終的に両者との関わりを持って活動をしていくことによって、次世代の育成という目標到達へ近づいていくのである。

としま案内人に参加されている方々は皆学習意欲が高く、参加当初は驚くことが多くあった。学ぶだけでなく、ガイド活動による実践を行うことによりその知識をただ蓄えておくだけでないことも理解し、改めて地域ガイド活動における学びと実践という学習の形に感銘を受けた。また、最近組織された英語部会に代表される JICA や留学生のガイド活動への展開のように、さらに新たな活動の幅を広げようとする行動力にも驚かされた。生涯学習団体として、このように学習とアウトプットが両立できることこそ重要なのではないだろうか。

#### 【謝辞】

本実習を行う機会を与えてくださった大学関係者の皆様、実習を行うにあたり協力をしてくださった五十嵐さん、としま案内人の皆様、早稲田大学の森下先生にこの場を借りて感謝申し上げます。実習で学んだことを今後役に立てていきたいと思っております。

【参考文献】

としま案内人 HP <http://toshima-guide.com/> 2019年2月20日閲覧

岡本薫 「新訂入門・生涯学習制作」 一般財団法人日本青年会 平成16年1月25日

参考文献、を示しましょう。一覧を入れ込むこと 最低でも5,6冊あるはずです。あと、  
としま案内人の URL 等を示して提示しなければなりませんね。